

広報 ふたば

特別養護老人ホーム 双葉苑

〒803-0273 小倉南区長行東3丁目13番17号 TEL093-451-5865

～生活の舞台～ 第8回目 季節のディスプレイ

正月、ひな祭り、春の桜、初夏の新緑、盛夏の山海、秋の紅葉、ハロウィン、冬の雪景色、クリスマス、等々。私たちの住む日本には、美しい「四季」があり、また季節ごとに様々なイベントが各地で行われますよね。

当苑に入所中の皆様にも、少しでも季節を感じていただき季節ごとのイベントを楽しんでいただきたく、私たちは苑内のディスプレイにも力を入れています。タペストリーや置物、また手作りの装飾品等もふんだんに使い、さらにBGMも季節の曲を流したりする等して、雰囲気盛り上げております。

外部のイベントにお連れすることがなかなか難しいのですが、だからこそ苑内でも「四季を楽しんで」いただきたく、今後もさらなる季節ごとの演出の強化に注力していきたいと思っております。



入念なミーティングと事故発生時の冷静な連絡



非常用設備の点検と使い方の確認



初期消火は重要

5月27日(水) 防災訓練の様子

安全の確保と日常

ふたばよもやま話 (第四十回)

～風治八幡宮 川渡り神幸祭 (田川市)～

永禄年間(1558年～1570年)、疫病流行の際に、氏子一同悪疫平癒を祈願し、御願成就の御礼として山笠を建立し神幸祭に奉仕したことに始まると伝えられ、450年以上の歴史と伝統を誇る祭礼です。

六十人昇きの(運行する神輿としては)日本最大級の大神輿が、五色のバレンで飾り立てた十台余の幟山笠を引具して、彦山川の川瀬を練り渡る勇壮にして豪壮な一大神事です。

山笠には何れも長い綱をつけて子供が曳き、舵棒や屋台には若衆が付き、いなせな采配振りが台上から号笛など吹いて彦山川の清流を押し渡り、祭り囃子は町内隈無く響き渡り、新緑に包まれた大川筋一帯を祭り一色に染め上げます。福岡県指定無形民俗文化財に指定され、県五大祭りの一つに数えられる絢爛豪華な一大絵巻です。

川渡り神幸祭の主役は、風治八幡宮の御神体が乗る大神輿です。農業になくてはならない“水”を清め、無病息災を祈願します。



子どもの頃より親しんできた地元祭りの笑顔の介護主任・佐々木さん(右)と、その縁で毎年参加するようになった生活相談員の荒牧さん。二人とも大の祭り好きです。



寛ぎと安心感の提供こそ当苑の最大の使命です



日頃の安全確保の上で、入所者様の安心と笑顔が生まれてきます



今月の予定(6月)

石橋胃腸内科医院 回診 (毎月曜日)

1日、8日、15日、22日、29日

ますゆき皮膚科クリニック 回診

4日(木)

小倉南歯科医院 回診 (毎火・木曜日)

2日、4日、9日、11日、16日、18日、23日、25日、30日

ビューティヘルパー (訪問理美容)

17日(水)

【編集雑記】▼子供の頃の思い出の一つにお祭りがあるのではないだろうか。楽しい一日と共に季節の移ろいを感じることもできる節目でもある▼入所者様が若い頃、今のような楽しみもなく、また食も質素な中で、日頃と違った御馳走を味わえる貴重な機会でもあった。さらに日常生活から解放される楽しいひと時でもあったと思う。単調な日常にメリハリをつけることにより英気を養うことができる▼娯楽が少なかった昔に比べると、現在の祭りが持つ意味は大きく変わってきているだろう。労働も昔に比べると大きく減り、情報も溢れている。また情報化社会の恩恵で、テレビやネットなど全世界の情報をリアルタイムで知ることができるようになった▼そんな中においても祭りはやはり、単なる娯楽とは違った魅力がある。昔は大変な生活の中の息抜きだったが、現在は団結力と共に自分が主役になれる、高揚感に浸れるという新しい魅力が加わったのではないだろうか▼当苑の職員には、北九州はもちろん、筑豊出身者、あるいは筑豊在住の人も多い。筑豊と言えば、田川市で毎年5月に行われる川渡り神幸祭が有名で、職員の中には子供の頃はもちろんだ、今でも参加している人もいる。地元地区の山笠、神輿、また女性には祭りを支える支援の団体のお手伝いなど多くの活躍の場がある▼今年も数名が祭りに参加、また時間の都合で見物のみに来た人もいます。地域の伝統行事に仲間内で参加できることは素晴らしいことだ▼これから夏まじりの季節である。北九州の各地の祭りで当苑の関係者を見かけたら、ぜひ応援の一言を!!